

1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0870600376
法人名	濱野精麦株式会社
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地	〒308-0827 茨城県筑西市市野辺133-2 (電話) 0296-24-7727

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(平成20年11月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 8日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円	その他の経費(月額)	57,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	495 円
	夕食	495 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	82 歳	最高	101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宮田医院・協和中央病院・ひろせ内科クリニック・野口歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街に溶け込むようにあり、近隣住民が立ち寄りやすい雰囲気になっている。利用者と職員の笑い声が絶えず、ゆっくりと個々のペースに合わせた関わりが印象的なホームである。ターミナルケアにも取り組んでおり、家族や利用者の協力を得ながら、その人らしい最後を迎えられるようなケアの提供をしている。家族や近隣住民との繋がりを大切にしながら日々のケアを振り返り、常に向上を目指しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価をもとに、より充実した消防訓練を行っており、地域との連携も深められている。その結果、避難経路の工夫や再確認が行なっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	勉強会のなかで、職員全員で自己評価の作成に取り組んでおり、ケアの振り返りの機会としてとらえている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	4ヶ月に1度定期的に開催されている。参加メンバーからの意見をもとに、次回開催時の議題を決定しており、継続性をもたせた会議の内容となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や、苦情受付の説明を充分に行なっている。家族の面会時には、意見や要望を確認できるような環境作りをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	気軽に近隣の住民が立ち寄っていたり、地域のイベントやホームのイベントを通して交流が頻繁に行なわれている。避難場所として庭を提供してくれる住民もいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての6つの基本理念を掲げている。職員と話し合いを持ち作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアを行なっても振り返るときには常に理念をもとにしている。「その人らしいかどうか」を確認し、意見交換をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	野菜やお菓子の差し入れをしてもらったり、イベントに参加してくれたり近隣住民との交流は多く、ホームに対する理解も深い。また、利用者を地域の一員として受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価をケアの振り返りや日々の業務改善の機会としてとらえており、改善に向けて積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練、ターミナルケア、職員の働きやすい環境作りなど、幅広いテーマでの話し合いが持たれ、活発な意見交換の場となっている。		今後は、2ヶ月に1度の開催に向けて取り組み、更なる意見交換やサービス向上に繋がられるよう期待したい。

茨城県 グループホームひなたぼっこ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>認知症サポーター養成講座の開催を依頼されており、市と協力して地域住民の認知症への理解を深められるよう取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りだけでなく、担当職員が日々の様子を手紙に書き報告している。また、変化があったときには随時報告を行なっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>実際に苦情として上げられたものは無く、職員が常に意見や要望を確認できるよう話しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職や異動が最小となるよう取り組んでおり、新人職員に対してはプリセプター制度を設け職員教育に力を入れることで、利用者の混乱を防いでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員に合った外部研修やスキルアップのための研修に参加できる体制を取っている。その研修で学んだことや日々のケアの方法などを勉強会で学んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者と情報交換や行事参加、法人研修などさまざまな方法で交流を持ち、ケアの質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の状況に応じて、事前訪問や日中の体験サービス、体験入居など柔軟に対応し、馴染みながら入居できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできる力を見極め、それが継続できるようそつと見守りながらサポートするよう取り組んでいる。また、利用者の職員への気遣いに感謝しながら支えあう関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やその後の生活の様子、家族の情報などから本人の意向を把握できるよう取り組み、実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・担当職員・看護師・医師などと話し合い、意見を出し合いながら計画作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況変化や新しい課題が出たときには評価を行ないモニタリング用紙を活用し随時見直しをしている。また、新たに得た情報は個別記録に残しケアプランに反映できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症に関する相談受付や認知症サポーター養成、ホームの見学などを行なっている。また、利用者の受診支援や外出の支援など要望に応えられるよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の要望に応じたかかりつけ医の受診を支援している。また、協力病院は緊急時の対応や往診も行なっており認知症の理解も深い主治医である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りケアについてのマニュアルや承諾書を整備し、積極的に取り組んでいる。利用者の状態や希望に応じてその人らしい最後を迎えられるよう職員の体制も整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しての書式の整備や職員の利用者に対する言葉使いも教育されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを守り、今までの生活リズムが崩れないように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理、片付けを利用者と職員が一緒に行ない、食事を楽しむ雰囲気作りも行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴が行なえるよう体制を整えている。入浴する時間をゆとりとり、楽しみにできるよう支援している。		入浴拒否が強い利用者に対しての誘導をさまざまな方法で工夫されているので、今後も継続し楽しみに繋がるよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの利用者の得意としてきたことを役割や楽しみごととして支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、散歩やドライブ、買い物などの支援を行なっている。また、いつでも好きなときにホーム外に出られるよう、配慮している。		身体的状況により外出が困難になっている利用者に対しても、今まで通りホームの外に出る機会を継続して持っていけるよう期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯や危険性がある場合を除き鍵を掛けないケアを実践している。また、職員の見守りで自由に屋外に出られる環境となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、地域との連携も密になっており、連絡網も施設内だけでなく、地域住民のものも作成して協力が得られるようになってきている。		今後は、スプリンクラーやホーム内の設備の見直しと設置を行いながら、新しい環境での訓練を行っていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、脱水や便秘への配慮もあわせ、食事や水分量の確保を行なっている。また、個々の嚥下機能の変化に合わせた食事形態となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気と機能的な環境となっており、利用者にとって不快な音や光は感じられない。また、季節感のある装飾で利用者の五感を自然に刺激できるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の利用者が大切に使ってきたものが置かれ寛げる雰囲気になっている。また、利用者の状態に合わせて畳やベッドなど臨機応変に対応している。		